

19m11

教育方法論m

班別討議



1近代教育思想と教授学の成立



全体発表

教育方法論 19m 班まとめ (授業者が書くこと)

第 回

各班ワークシート複数資料用 (まとめ)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (近代教育思想と教授法) の成立

■テキスト (新しい時代の教育方法)

まとめ ()

- ・ リアリズム教育
- ・ 「感覚」 → 「有用」
- ・ ベーコン「知は力なり」 演繹法 → 帰納法
科学の発展
↓
教育の転換
コメンタリス
自然を知る → 神を知る → 世界平和のため
最初の総合教科書「世界図説」 → 知も感覚と理性
ロフ → 形式陶冶 → 自然認識
ルフ → 近代教育思想の祖 → 道徳教育

■肯定的 web ()

まとめ ()

- ・ パスポート → 道徳教育
- ・ 感覚器官を通じて経験
- ・ フレーベル → キンダーガーデン
「自己活動」と「共同体」
道徳にも教育的意義

■否定的 web ()

まとめ ()

- ・ パスポート
- ・ 教材は道徳の清のやど
- ・ じゃなく「横七丁」おは
- ・ ならなり清の中

■班としての要約

まとめ ()

- ・
- ・
- ・

キーワード 10~20 語 明日中に 概念系統図

- | | | | |
|---------|---------|----------|------------|
| ・ リアリズム | ・ ベーコン | ・ コメンタリス | ・ ロフ |
| ・ ルフ | ・ パスポート | ・ フレーベル | ・ キンダーガーデン |
| ・ 演繹法 | ・ 帰納法 | ・ 道徳教育 | ・ 道徳教育 |
| ・ | ・ | ・ | ・ |
| ・ | ・ | ・ | ・ |

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことをのべよ。

教育方法論 19m 班まとめ (授業者が書くこと)

第10回

各班ワークシート複数資料用(まとめ)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (近代教育思想と教壇の^{成立})

■テキスト (新しい時代の教育方法)

まとめ (リアリズムに裏打ちされた近代教育観。)

・イギリスの哲学者ベーコンは、自然法則に準じた科学的
思想方法である帰納法を確立した。

・コメンテウスは、科学の領域においてなした成果を教育の
領域で発展させた。

・ロックは、知識を獲得する能力を重視し、形式陶冶の
考え方を示している。

・ルソーは、事実の教育、また教育の必要性を重んじた。

・ペスタロッチは、感覚を通じて経験させ修得させる
直観教授の方法をとった。

・フレーベルは「教育は人間と神との一体性にまで導か
ねばならない」という考えに致った。

■肯定的 web (演繹法・帰納法とは。)

まとめ (ペスタロッチの教育思想 まとめ。)

・帰納法は、事象について多くの情報を集め、

自他が納得できるような論理展開を作るのに長けて
いる。

・直観教授は、机上の空論になりにくく、道徳的な
授業を行うのに長けている。

■否定的 web (演繹法・帰納法とは。)

まとめ ()

・帰納法は、1つでも例外があると説得力が大きく
損われてしまう。

■班としての要約

まとめ ()

・多様な近代教育思想は、リアリズムを基軸として
展開してきた。

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取

キーワード	10~20 語	明日中に	概念系統図
・リアリズム	・学校	・事実の教育	・
・神の啓示	・ロック	・フレーベル	・
・ベーコン	・形式陶冶	・	・
・帰納法	・実質陶冶	・	・
・コメンテウス	・ルソー	・	・

2 教育学の体系化と授業の組織化



教育方法論 19m 班まとめ (授業者が書くこと)

第 回

各班ワークシート複数資料用(まとめ)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (^{教育学の体系化と} ^{授業の組織化})

■テキスト(新しい時代の教育方法)

まとめ (教育学を体系化した人物は、ヘルバルトである。

・教育学の目的を倫理学に、方法を心理学に求めて教育学を樹立した。

・教育に「管理」「訓練」「教授」の3領域がある

・ヘルバルトは指示、結合、教授、哲学の4つの教授段階に分け、そこからラインは「分析→総合→連合→系統→方法」の5段階に分け

・そこからラインは、「予備→提示→比較→総括→応用」という5段階教授法を用いて授業を構成することを広く試みられた。

■肯定的 web ()

まとめ ()

・生徒の主体的・対話的で深い学びができる
・よい授業改善をする

・生徒に求めらる資質・能力を育む観点

・からも授業改善をする

■否定的 web ()

まとめ ()

・欧米からの教育学 → ^{わが国の} 教育学の学問としての体系を整え



日本の教育学の有するある種の脆弱さが認められた。

■班としての要約

まとめ ()

・欧米からの教育学のおかげで我が国の教育学が整った。

2) 全体発表(模擬授業)を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたこと、気づき

キーワード	10~20 語	明日中に	概念系統図
・教育学	・体系化	・授業	・組織化
・ヘルバルト	・倫理学	・心理学	・管理
・訓練	・教授	・3領域	・5段階
・教授法	・	・	・
・	・	・	・

教育方法論 19m 班まとめ (授業者が書くこと)

第 11 回

各班ワークシート複数資料用(まとめ)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (教育学の体系化と授業の組織化)

■テキスト (新しい時代の教育方法)

まとめ ()

- ・教育学を体系化したのは ALBERT
- ・教育目的は道徳的品性とし、それを得るため
- ・教育体系には管理、教授、訓練を利用すること
- ・が重要と考えた。
- ・教授方法として、明瞭→連合→系統→方法
- ・の順で行う4段階教授法を考案した。
- ・その後ラインによって、予備→提示→比較→統括
- ・→応用の5段階教授法となり、近代の学校制度
- ・でも一部受け継がれている。

■肯定的 web ()

まとめ ()

- ・ドイツは子どもに好き勝手にさせるのではなく
- ・カリキュラムが重要と考えた。
- ・子ども中心主義の運動の中心であった。

スウェーデンの授業形態は大学のような自分の好きな
授業も選択でき、その内容もまず教師が大きな
なテーマを決めて、それについて子どもが自分で調べ
たことを述べる
この日も使うので情報処理能力も向上した

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取

■否定的 web ()

まとめ ()

- ・飲食や携帯使用が自由にできるようになった。
- ・

■班としての要約

まとめ ()

- ・ALBERTのようなシステムが作られていて、
- ・ドイツは子ども中心主義でもよくない。
- ・探究学習を行うにはある程度、教師が主導
- ・心算がある。

キーワード 10~20 語 明日中に 概念系統図

- | | | | |
|-------|---------|---------|-------|
| ・教育学 | ・体系化 | ・授業 | ・組織化 |
| ・形式化 | ・教育目的 | ・道徳的品性 | ・教育体系 |
| ・教授方法 | ・4段階教授法 | ・5段階教授法 | ・学校制度 |
| ・授業形態 | ・人間関係 | | |
| ・ | ・ | ・ | ・ |

3カリキュラム研究の成立と展開



教育方法論 19m 班まとめ (授業者が書くこと)

第11回

各班ワークシート複数資料用(まとめ)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (カリキュラム研究の成立と展開)

■テキスト (新しい時代の教育方法)

まとめ ()

- ・ ソーングイ → 学習の法則: 刺激と反応の組み合わせ
- ・ 科学的測定運動 → 教育は客観的にとらえることが可能
- 客観テスト (同じ評価基準に基づいて作られたテスト)
- ・ ポジット → 社会的知事: カリキュラムを工場の労働生活に合わせた
- ・ チョーク → 生活の活動を分けてカリキュラムの要素にする
- ・ 単元: 教科単元、教材の柔軟性に差がある → 単元
- ・ 経験単元: 生徒の経験、興味、関心

タイ → 教師は単なる知識の伝達ではなく問題解決能力の育成を教育目標とする → タイの原理

ブルーム → 教育目標を認知、情意、精神運動の3つの領域に分けた

■肯定的 web (偏差色の生の報、桑田エムへのインタビュー)

- まとめ ()
- ・ 日本にも1930年ごろ教育測定運動が芽生えた
 - ・ 伝統的で権威的では日本の教育士長には不向きで
 - ・ 根付かなかった

■否定的 web (教育目的論における「教育目標」) まとめ (概念の分析)

- ・ カリキュラム論における教育目標の範囲は
- ・ ポジットに於いて当の概念が含み出せるタイ
- ・ よって体系化され、ブルームによって完成された

■班としての要約

まとめ ()

- ・ タイ、ポジット、ブルームはカリキュラム論において
- ・ 教育目標に差をみている

キーワード	10~20 語	明日中に	概念系統図
・ ソーングイ	・ 社会的知事	・ 単元	・
・ 学習の法則	・ カリキュラム	・	・
・ 科学的測定運動	・ 工場	・	・
・ 客観テスト	・ チョーク	・	・
・ ポジット	・ 生活の活動を分ける	・	・

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取り組みについて感想を述べよう

教育方法論 19m 班まとめ (授業者が書くこと)

第 11 回

各班ワークシート複数資料用(まとめ)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (カリキュラム研究の成り立ちと展開)

■テキスト (新しい時代の教育方法)

まとめ (カリキュラムの研究は1910年代から始まった、その
 がう様な教育が生み出した。

- ・ ソンダイク ... 学習の法則, 客観テスト
- ・ ホーカースト ... 活動分析 生活適応教育
 社会的効率
- ・ ハーカースト ... トルトン・プラン (トルトン・プラン)

・ ウィネカ・プラン ... ウィネカ・プラン

・ トルトン・プラン ... プロシエクト・メソッド

・ モリソン ... モリソン・プラン

・ グループ ... 教育目標の分類体系 (タキソミー), 形成的評価
 完全習得学習

■肯定的 web ()

まとめ ()

- ・ 主観の排除 (客観テスト)
- ・ 就職時における程度の知識が身につく
 (生活適応教育)

■否定的 web ()

まとめ ()

- ・ 批判・推論・創造の能力が評価されない
 (客観テスト)
- ・ 進歩率の増加 (中等教育で完了しない)
 必要の専門知識の複雑化
 批評
 (生活適応教育)

■班としての要約

まとめ (今日のカリキュラムの基)

- ・ カリキュラムの研究が始まったのは約100年前
 → 最近始まったから?
- ・ トルトン・プランとウィネカ・プランは失われた
 → 今日の教育に継承されている
- ・ 必要とする専門知識が複雑化したため、高校・大学の
 進歩率が上がった

キーワード 10~20 語 明日中に 概念系統図

- ・ トルトン・プラン
- ・ ウィネカ・プラン
- ・ モリソン・プラン
- ・ 客観テスト
- ・ 生活適応教育
- ・ 活動型カリキュラム
- ・ 活動分析
- ・ 完全習得学習
- ・ タキソミー
- ・ 形成的評価

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取

全体発表 (ICT活用例)



教育方法論 19m 班まとめ (授業者が書くこと)

第 // 回

各班ワークシート (模擬授業指導案準備)

班で討議したことを書くこと (指導案の要約ではない)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (地理, 日本の地形)

■学年・単元・本時の内容 (提示する教材)

中学 2年

社会科 地理,

日本の地形と気候

■目標、内容・指導の概略等

目標 ... 各地方の地形が気候にどのような影響を
与えているのかを考える

内容 ... 山岳と気候風の影響

指導 ... 各自でしるべで、討論させる。
カードを使って解説

■教材・板書計画、評価の観点・規準等



■工夫した点、出典等

・地形関係のアナリティクスと立体的な地図の
両方を用い、それぞれを見るべた上で
関係性を考えさせる。

・教科書だけではわからない部分を
ICTで補う。

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて 自分の班の取

4*) 今日の授業のキーワードのうち、班別討議、全

教育方法論 19m 班まとめ (授業者が書くこと)

第 回

各班ワークシート (模擬授業指導案準備)

班で討議したことを書くこと (指導案の要約ではない)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (数と文字)

■学年・単元・本時の内容 (提示する教材)

- 中学校数学科の文字式への数値代入の計算法、計算練習。

■目標、内容・指導の概略等

- 目標: 計算ミス、代入ミスを減らし、正しく計算できるようにする。

○ 指導の概略

→ CDケースを用いて数値の代入を視覚的に分かりやすくする。

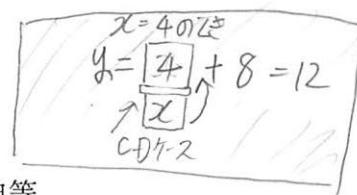
2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことをのべよ。

■教材・板書計画、評価の観点・規準等

- CDケースに厚紙を取り付けて文字を書けるようにする。



- 数値を代入するときに、CDケースの紙に実際に数値を記入する



■工夫した点、出典等

工夫した点

- CDケースに数値を書き入れることで代入する操作を視覚的に伝えることができる。

4*) 今日の授業のキーワードのうち、班別討議、全体発表での自分自身の発言に用いたものを3つ取

全体発表(確認問題10)



教育方法論 19m 班まとめ (発表者が書くこと)

第 回

各班ワークシート (確認問題まとめ)

1) (班内) まとめ 各問のポイント

■問1

- 子どもの多様な既存知識を活性化する
「非定型問題」
- 1人ひとりが多様な知識を関連づける
「個別探究」場面の組織
- グループ全体の「協同探究」における多様な考えの関連づけと本質の追究
- 「再度の個別探究」場面の組織

■問2

できる・獲得・繰り返し
自動化・概念的・深化
知識構造・再構造化・新たな知識
の組み

2) 問題全体を通して見て、全体のポイントと
思ったことをのべよ

■問3

定型的な手続きの意味を理解する
ために具体物やモデルなどを用いて
少人数指導やペアワークなどの
「個に応じた指導」を行うことが有効

■問4

日本の子どもは、解法が1つに決まる
ような定型的な問題に対して高い
正答率を示し、定型的な手続き的
知識やスキルを適用する力である
ことができる力を持つ。

2**) 確認問題に取り組んでみて、確認問題に取り

各班ワークシート (確認問題まとめ)

- 1) (班内) まとめ
各問のポイント

■問 1

- ① 子どもの様々な既存知識を活性化する
「非定型問題」の設定。
意識
- ② 1人1人が多様な知識を関連づける「個別探究」
場面の組織。
- ③ クラス全体の協同探究、における多様な考えの関連づけ
本質の追求。
- ④ 「再度の個別探究」場面の組織。

■問 2

できる、獲得、繰返し、自動化、概念的、深化、
知識構造、再構造化、新たな知識、
枠組

■問 3

少人数指導や ~~ペア~~
チームワーク などの「個に応じた
指導」を行う。

■問 4

協同的探究学習

⇒ 「個別探究、協同探究」の両者を重要視
したもの。この教育方法論もこのひとつ。

- 2) 問題全体を通して見て、全体のポイントと

2**) 確認問題に取り組んでみて、確認問題に取り

次回以降(12, 13, 14講)の 班編成

1班	工業	4, 6, 15, 16, 17, 19
2班	数	2, 10, 11, 12, 14, 18
3班	理(化)	1, 3, 7, 20, 21
4班	理2	5, 8, 9, 25, 26
5班	理3	13, 22, 23, 24.

番号は、提出確認プリント右端で
確認すること。

次回は、全員、

- ・模擬授業の指導案
(ICTの活用場面を含むもの)
- ・確認問題